開港阻止へ大結集

10・9全国総決起集会開く

三里塚

年末内閣を倒すまで延期する福田政権に対してあくまで犠牲をもむけて闘う力を結集し阻止しようと、三里塚芝山連合空港反対同盟は、九月十一日午後一時から千葉県成田市の三里塚第一公園で、「三里塚空港粉砕、開港阻止、ジェット燃料輸送阻止全国総決起集会」を開いた。集会には五月の鉄塔撤去以後最大の二万千二百人あまりが参加した。

この集会には九月十八日に大阪市の三里塚第一公園で、「三里塚空港粉砕、開港阻止、ジェット燃料輸送阻止全国総決起集会」を開いた。三月委員長は土屋書を代表として次のように発言した。

「三里塚空港の開港を強行しようとする福田内閣を倒すために何をすべきか考えてほしい。いま必要なのは戦術の転換だけでなく、一人ひとりの質的な転換だ。この結合が新たな闘う力をつくりだす。

（日本赤軍の日航機ハイジャックにふれて）戦術の最高はともかく、権力から殺人を加えられて六人の同志と十八億円奪った闘いから、われわれは何を吸収できるのか考えてほしい。

この集会で権力の暴を突破できるとは考えていない。あらゆる力とあらゆる創造性をもって闘ってほしい。三〇年かかってベトナム革命は勝利したが、三里塚はまだ十二年だ。まだまだ長期の闘いの途上にある。」

北原事務局長が基調報告をおこない次のように語った。

「三里塚闘争十二年の歴史のなかで現在、反対同盟は空港粉砕にかけた闘争の存亡にかかわる、最大の決戦を迎えている。どんな力の限り生と共に生き、都市労働者の生活の協を支えてきた農民の怒りに対して、機動隊の暴力をかさにきて土地の収奪を強行し、万民の決を権力が踏みにじることは決して許してはならない事である。日本農民の死刑執行人に対する怒りは、関西新空港に反対する住民団体、北富士・日本橋・伊川・沖縄反軍輸送のための工事が着工されようとしているが、これに対して断乎闘い抜くと発言した。このほか、関西新空港に反対する住民団体、北富士・日本橋・伊川・沖縄反軍輸送のための工事が着工されようとしているが、これに対して断乎闘い抜くと発言した。このほかに、福田政権打倒への反撃の大戦線に周辺住民・沼線住民を始め全国の人民が結集し、開港実力阻止の闘いに総決起されるよう訴える」

百万人動員実行委員会、東京住民団体、目黒行動実行委員会、連帯のあいさつの冒頭に立った都水道労組、部落解放同盟中央本部などの代表が発言した。

第二期工事区域内にある大ノ根、天神峰、東峰、横堀の各部落の代表が連帯し、最後まで闘い抜く決意を表明した。三里塚闘争の高揚をかちとった東山農家の高揚が集会によせたメッセージが読み上げられた。

この集会に対して警察当局は五千人の警官を動員した。彼らは空港内に配備した。集会後デモをおこなったが逮捕者はなかった。

三日後に開港阻止総決起集会を動員して締出しを強行、市が生産職の相談所を実績内の二カ所に作ったが、おどずれたのは一番の十五人ほどにすぎなかった。これに先立って日屋労働者と支援の二団体は午後二時すぎ、市役所に庁神民生局長をおどずれ強制排出の中止を求めたが当局は拒否、そのまま市庁舎の十二階にある総八会議室に交渉団は泊込んだ。四日朝には駅からしめだされた人たちが二十人あまりも市庁舎へ入って交渉に合流した。日屋労働者や支援の労働者市民はこぞって抗議する一方、中との手錠機関をつづけ、要求貫徹までは交渉の闘争体制に入っている。市当局と警察は市民の反感を恐れて互いに責任のなすりあいをつづけ、十二日現在も警察は実力排除していない。

10・9全国総決起集会のもよう

名古屋

人殺し行政止めよ！

国鉄構内から労仂者締出しに抗議

市庁舎に泊込んで交渉

名古屋市庁舎の一章を西日から名古屋西区江向町六一三〇そうめい荘八階三浦方）と名古屋駅冬炊き出しの会（名古屋市東区新栄町二二名古屋青教館内）は一昨年から名古屋駅で寝泊りしている日屋労働者、高齢者、病弱者、老人に冬はおにぎりとミソ汁の炊き出し、病弱者には仲間を通じて医療活動をしてきた。

九月二十二日に国鉄当局が駅構内から寝泊りしている人たちの強制排出しの方針をきめたことを聞いておこなわれている「ダどっこいノ人間節」を上映する。

日屋労働者と彼らを支援する労働者市民数十人が占拠し、「日屋労働者臨時簡易宿泊所」と張り紙した駅屋から労働者や市民は通勤、通学する人々に対して「一日千円九時中対区福祉事務所へ行き①市の宿泊施設である社会福祉センターに収容し生活保護扱いにし医療扶助を与えよ②施設に収容されない人には生保護世帯の立退き問題にアパートの敷金をだしてほしい」と要求、駅で寝泊りしている人たちは集団で生活保護を申請、福祉事務所は要求を突っぱねたため三十人が事務所にそのまま泊込んだ。

共和国建設者私たちはいかなるゆる分野で行います。

私たちは必ず勝利します。

これからも起訴を守ることはあるでしょう。私たちはまだ生命を失うことはありません。

私たちは人間の尊厳を奪います。国鉄当局は、人間の生命を奪ってはなりません。

私たちは天皇制日本帝国主義を追い打ちし、アメリカ帝国主義を追い出し、社会主義を建設するために、共に闘いましょう。

「恐るる政治的問題なし!!」

私たちは、人間はかわるという確信だけ、社会主義を建設するために、共に闘いましょう。

私たちは、人間は変わるという確信から、非妥協に徹底して闘い、初めて武装闘争を非妥協に徹しなければなりません。

私たちは武装闘争を非妥協に徹して、共に闘いましょう。

十月六日、日本赤軍の日高隊南興が本社に郵送されてきた。全文次の通り。

日本帝国主義のブタどもよ、そして日高隊員、そして同志憲殺にたいする憎しみは、けっして消えるものではない。それは人民の日々の生活と生命を奪い続けている腐敗的現実と獄中同志憲殺・革命基盤かく得のために作戦を遂行します。

1

日本帝国主義のブタどもよ、そして日高隊員、そして同志憲殺にたいする憎しみは、けっして消えるものではない。それは人民の日々の生活と生命を奪い続けている腐敗的現実と獄中同志憲殺・革命基盤かく得のために作戦を遂行します。

2

日高隊員、やっと階級的覚醒が始まりかけてきた。

3

私たちは、私たち自身の敗北、大胆に教訓化して実践的になりました。

4

日本共産主義運動も国際共産主義運動も、人間が変わるという観点から、必ず統一できると確信します。そして、人間信頼のブルジョア思想と非妥協で闘う断絶性とします。

日本の内ゲバや、中国とソ連の分裂をたいして、「仕方がない、現状だ」と開き直ってはいられません。

私たちは天皇制日本帝国主義を打倒し、アメリカ帝国主義を追い出し、社会主義を建設するために、共に闘いましょう。

5

私たちは労働者階級人民の生活を守ることは一回の軍事作戦や、はなばなしい宣伝戦ではできないことを知っています。父さんや母さんたちが生活を闘いとって私たちを育て、支えてくれたことも知っています。生活の場を闘いの場として持続的に粘い続けることの隙、さらに全国が統一できることを知っています。そういう闘いと心を一つにして闘うことこそ、生活の中に原点があります。だから、どんな困難や危機に陥っても必ず回結して克服します。

私たちは、人間はかわるという確信のもとに作戦を遂行します。

日本帝国主義の天皇が、その終結も自己の手で行った、いや行なえたという事実は注目すべきことである。

ともあれ、この日を境に、長かった強圧と侵略の歴史に一応の終止符が打たれ、戦後の新しい時代が始まった。

しかしこの新しい出発は、今までに増して苦難なものであった。都市は焦土と化し、残った環も疲弊・荒廃され、失業者、復員者、引揚者が街にあふれた。

戦後文配階級が成立させた自民党は、農地解放、財閥解体、天皇の財産凍結、初の憲法（国会、内閣、首相）は、これら大衆の苦しみに対して何ら有効な政策をもたず、ただ天皇制の維持のために狂奔している。大衆の不安と不満はつつ積っていた。この時に、大衆の先頭にたつべき人びとは、まだ獄につながれたままであった。治安維持法は廃止された。

十月十日、獄中十八年の徳田球一らの天皇主義者をはじめ全政治犯が釈放された。敗戦の日から約三カ月（五十六日）たっていた。この間に哲学者三木清は獄中で病死していた。（九月二十六日）

十月十一日、五大改革指令が出され、婦人の参政権、労働者の団結権、教育の自由主義化、専制政治の廃止、秘密の民主化等要求の自由主義化、専制政治の廃止、秘密の民主化等要求の自由主義化、専制政治の廃止、秘密の民主化等要求